

理事長就任中の学会を考える

(2008年4月～学会大会：第38回～)

第9代理事長(現理事長) 麻生 恵

2008年度より役員任期の期間が2年から3年に変更され、理事長を拝命して今年で3年目となる。2年間では纏まった仕事を成し遂げるのは難しく、また役員選挙についても相当な労力が必要とされるので、3年任期に変更されたのは大変良かったと評価している。本稿ではこの2年半の取り組みを紹介しながら、今後の課題について整理してみたい。

理事長に就任し学会運営を任されて最初に感じたことは、これまでの先人の方々の大変なご努力・ご苦勞により、学会運営体制や役員選挙規定などが十分に整備され、理事会運営など学会の基本的な部分においてほとんど支障がなかったことである。これに対しては本当に有難く頭が下がる思いで、心より感謝申し上げたい。

こうした状況から私に課せられた使命は、先ずは堅実な学会運営に務めながら内容の充実、特に会員サービスの向上、事務局機能の更なる充実と合理化、それに第40回記念大会が任期中に開催されることから、記念事業の企画・実施であろうと考えた。

事務局機能については、淑徳大学西田先生の研究室から東京農業大学の私が所属する観光レクリエーション研究室への事務局移転を実施した。東京農業大学は複数教員からなる研究室体制をとっており、また大学院生が常在籍していたり研究室OBの協力が得られるなどスタッフとしての環境には大変恵まれている。就任直後から移転作業にとりかかったものなかなか大変で、総務担当の先生方のご苦勞にも拘わらず完了するのに1年以上の時間を要してしまった。

次に、事務局業務の効率化・合理化についてであるが、前理事長時代に導入した学会ホームページをリニューアルし、会員等への学会情報提供だけでなく、会員管理、行事への申し込みや会費支払いなど総合的な機能を備えたシステムの導入を就任2年目から開始した。Web特別委員会の先生方にご多大なご努力をいただいた結果、第40回大会の申し込みはWeb上で出来るところまで漕ぎつけた。

第40回大会に関わる記念事業の目玉は「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み～その2 - 1996～2010 -」の編集・刊行である。前回(1995年刊行)の内容に加えて今回は特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」を企画・編集した。これは昭和61(1986)年に本学会が総力を上げて刊行した研究書『レクリエーション学の方法』に続くもので、これから研究を志す者にとっての指南書として大いに役立つであろうと期待している。

新システムの導入に伴い、会員に提供する情報のデジタル化を進めており、学会ニュース89号は初めてデジタルによる配信を行った。「学会の歩み」もデジタルデータで会員に提供される予定である。このように事務局機能は大幅に合理化・効率化されつつあるが、さらに会費納入と会員管理の両機能を一体化することによって更に事務局機能の強化・効率化が図れるものと考えられる。

学会全体の今後の課題として、学会発展の将来ビジョンあるいは中長期計画を策定する必要がある。21世紀成熟社会(あるいは人口減少社会)の社会ニーズに答えているのか、ともすれば研究者や教員中心の会員ニーズへの対応に片寄りがちな中で、学会として幅広い議論を行い今後の方向性を打ち出していくことが必要で、それが学会の魅力を高め、若手会員の獲得にもつながると考える。

今回の第40回記念大会特別セッションでは現会長より今後50回に向けた活動提案がなされる予定である。こうした企画の更なる展開を期待している。